



6月うぶやま天文台星空情報 1



全天最大の超巨大 球状星団の星団を見よう

天空が広がるうぶやまの高原には、爽やかな薰風が吹いています。陽が長くなり、はやくも夏日や真夏日の便りが伝えられています。

睦月の空で、季節は初夏ですが、星空は、南にはまだ春の星座があります。

この時期、南の空低く肉眼で見える全天最大の球状星団、 ω （オメガ）星団を見ることができます。

球状星団とは、天の川銀河形成の初期の頃にできた数十万個の恒星が、ホール状に集まつたものです。その中でも ω 星団は見かけの大きさが満月 2 個分ほどあり、約 1000 万個の恒星の集団で、全天で最大の大きさです。明るさは 3.7 等級ですが、南の低い位置（九州では約 10 度、沖縄で約 15 度）にあるため、冬のカノープス（-1.7 等級）と同じく、見るのが困難な天体です。カノープスと同じで、関東以北では見えません。

名前にギリシア文字 ω （オメガ）という恒星名がついているのは、15 世紀にバイエルが、この星団を恒星と見間違えてつけたためです。19 世紀にハレーが望遠鏡で球状星団と確認しています。

南の地平線近くにあり、 ω 星団の南に、南十字星や太陽系に最も近い恒星 α ケンタウリもありますが、これらは沖縄以南でないと見えません。

産山では南十字星の頭の 2 等級のガクルックスが北限なので、見えるかも知れません。

産山では、6月初旬 20 時 30 分頃、高度約 10 度と低い位置で南中します。高度が高く見える低緯度地帯では、元々、太陽より大きい恒星の集まりなので白っぽく見えるのですが、産山を含めた日本では低空で大気の減光を受けて黄色っぽく見えます。大型双眼鏡で見ると無数の恒星の集団がボール状に密集しているのがよく分かり圧巻の姿です。



国立天文台の副台長の渡部潤一先生が、高校生の頃、天文部の春合宿で仲間と共に見て感動した心に残る天体だと言われています。

南の低空にあるので大気の影響を受けて少しオレンジっぽく見えます。

